

キャリア通

- ★ 2学期もどうぞよろしくお願ひします
- ★ 授業改善とラーニング ピラミッド
- ★ ミッション クリア型 の授業のススメ



夏休みで、前号からちょっと間が空きましたが、キャリア通5号をお届けします。2学期もどうぞよろしくお願ひします。



8月には、各校でキャリア教育の話をさせていただき、ありがとうございました。真剣に聞き、考えてくださって感謝しています。これからも、いろんな研修等で習ったことや考えたことを、できるだけ分かりやすい表現に変換してお伝えしていきたいと思っています。

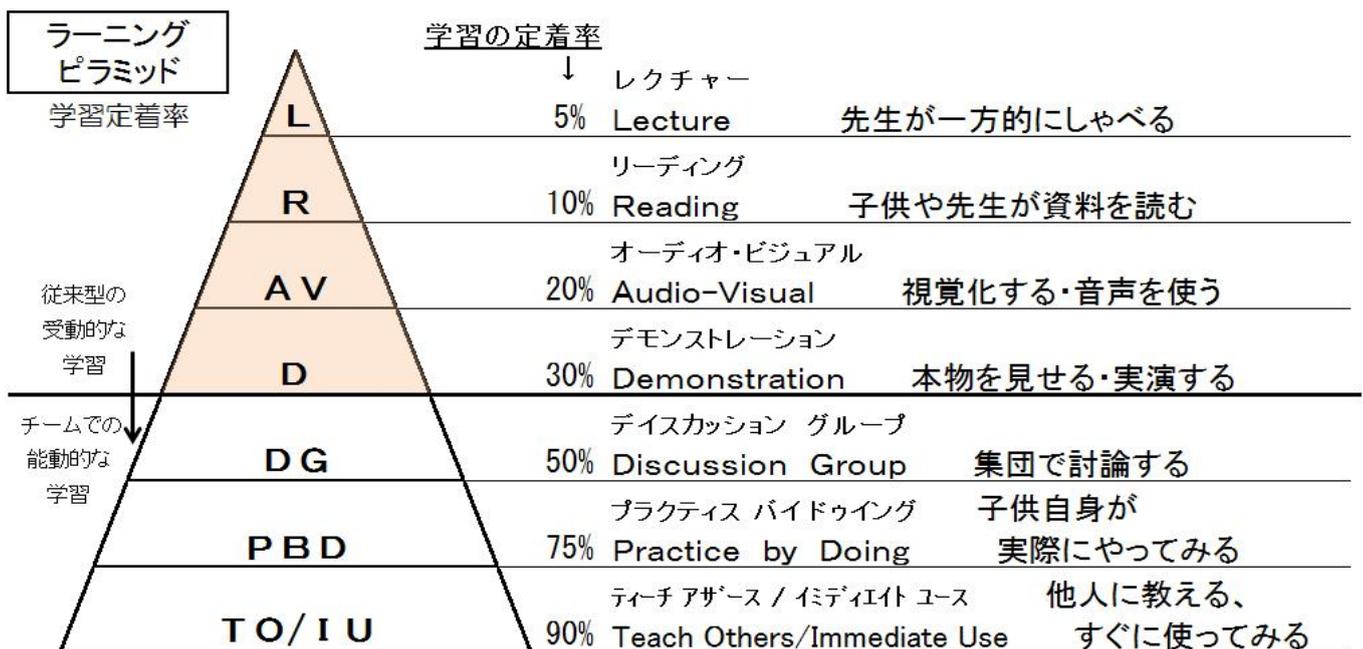


さて、須崎市では『体験活動の再プランニング』と『キャリア教育視点での授業改善』の2つを柱にして、各校の独自性を大切にしながらキャリア教育を進めていきたいと思っていますが、8月23日の教職員研修の園田先生のお話の中に、授業改善のヒントになることがたくさんありましたので、キャリア教育と関連させて、少し綴ってみたいと思います。

黒いランドセルの女の子のお話もそうでしたが、先生の視点・そのことをどう捉えるかが、いかに大切か感銘を受けました。でも、正しい視点を持つことは、とても難しく、何か拠り所になるものが、それが道徳教育や人権教育の視点であったりするわけですが、さらに“キャリア教育の視点”が加わることで、どんな視点で子供たちに指導や支援をするかと考える時の、より確かな拠り所になると考えています。



『授業改善』に話を戻しますが、園田先生のお話の中に、ラーニングピラミッドというのがありました。興味深かったので、お話をメモしたものと、ネットで調べたことをもとにして、自分なりに再現してみました。



ラーニングピラミッド…『習ったことが使える』という視点



学習の定着率を表したものですが、学習の中に子供たちの活動が増えるほど定着率が高くなっています。各%は、確かな実証実験があったわけではなく、世界中に広まる中で付け加わっていったもののようですが、教育に関わるたくさんの方が、自身の体験から感じていることと一致しているようなので、この数字の真偽はともかく、能動的な学習を増やすことで、学習の定着率が上がることは間違いのないと思います。



右図は、各校で話させていただいたプレゼンの1枚ですが、授業改善といっても今までと全く違うことをするんじゃなくて、『なぜ』とか『どうやって』とかを考えることで、授業の構成を変えていくことです。例えば児童生徒に提示する面白い画像があったとして、それを最初に見せるのか（導入で引き込む）、メインのところで見せるのか（考えをさらに引き出す）、終末に見せるのか（学習内容を強く印象付ける）によって、全然違う授業になります。

※でも、忙しいから授業改善の時間がとれない

今までと全く違う授業を考えるのではなくて、

★なぜこれを教えるの？

これを教えると子どもたちにどんな役に立つんだろう

★どうやったら効果的？

教科書にあるからではなくて、子どもたちの関心を高めるにはどんな出し方をすればいいんだろう？

という考え方を習慣化して、
今の**授業の構成**を、ちょっと変えるだけでも
授業が改善されていきます。



習ったことがすぐに使える『ミッションクリア型 授業』



でも、『どんな役に立つ？』と考えるのも、けっこう難しいですよ。そこで、ラーニングピラミッドの一番下と繋がってくるんですが、『他人に教える。すぐに使ってみる』というのが、『習ったことが役に立った』と子供たちが感じるよい方法だと思います。

1学期に須崎中学校で、JICA(国際協力機構)の方にご協力いただいて、『ウガンダの子供たちに英語で手紙を書こう』という授業をされたのを見せていただきました。「英語を勉強してないと将来困るよ」と言われるよりも、習った英語を使って手紙を海外に届けるというミッションをクリアしていくことで、英語を学ぶ良さや大切さを実感することができると思います。実際に須崎中の2年生たちは、集中して話を聞き、積極的に取り組んでいて、素晴らしい授業でした。



このように、単元目標とは別に“ミッション”をつくってみるのはどうでしょうか。いろいろとやり方は考えられますが、ミッションを考えやすいのは“誰かに教える”という方法です。これもピラミッドの一番下ですね。習ったことを下級生に教える、中学生が小学生に教える、地域に発表する、家族にウンチクを語るなどです。



『教えるって楽しい』『使えるって嬉しい』



例えば、気象の学習。科学的な見方や考え方を養うという教科の目標がありますが、現象を理解したり、気象用語や記号を覚えることがメインになると、役立つのはテストや入試という感覚になります。そこでこんなミッションはどうでしょうか。

<ミッション>

- 新聞の天気図を見せながら、家族に天気について語る。
- 成功話、または失敗談をレポートする。



教える相手は、下級生でも地域の人でもいいですし、新聞が無ければコピーでもいいと思います。『この単元で気象に興味をもって、テレビの天気予報を、天気だけじゃなくて気象情報として理解できるようになってほしい』という目標というか、願いもあります。



そして、このミッションクリアを目指す(失敗してもいいので)ことで育まれる能力にはどんなものがあるか、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の一覧表を眺めて考えてみました。

<ミッションクリアを目指すことで育まれる能力など>

* 気象に関する知識・理解、科学的な見方や考え方

⇒教えることでさらに確かなものに

* 習った内容と、実際の事象とを結びつけ、活用する力

* 分からないことを、自ら進んで調べたり、誰かに聞いたりする力

* 相手に伝えるためのコミュニケーションスキル

* うまく伝えられなくても、もう一度学び直すなどの、前向きに考える力

* 学ぶことの意義や、学ぶことと自分の将来とのつながりを考えたりする力 など



今号では、ミッションクリア型の授業を提案しましたが、『誰かに教える、すぐに使う』というキーワードは、授業改善にとっても役に立つと思います。

今までの授業スタイルを変えるって、なかなか難しく、やってみて『子供たちの反応がよくて楽しかった』のような成功体験を増やしていくしかないかもしれません。私も反省していますが、授業を振り返って、ピラミッドの上の方の授業が多ければ、レッツ授業改善！です。連絡をいただければ、お手伝いに行きますので。

